

令和5年度第2回大野城市芸術文化振興審議会会議録

日 時：令和5年12月5日（火）10:00～12:15

場 所：市役所新館4階 426 会議室

出席者：委 員 安河内俊明会長、長津結一郎副会長、糸山裕子委員
中嶋真理子委員、豊永蘭子委員、松吉典子委員、
國分愼二委員、小林京子委員、齋藤廣樹委員

事務局 佐藤コミュニティ文化課長、中川コミュニティ文化課芸術文化担当係長、辰野、手島

資 料 【資料1】 中間年度見直しシートの見方
【資料2】 中間年度見直しシート
【参 考】 令和5年度までに実施した取り組みについて
【参 考】 中間年度時点の数値目標について
【参 考】 芸術文化活動に関する調査報告書

1 開会

事務局

本日のスケジュールについて説明。

基本施策ごとに中間年度見直し方針（案）の内容を審議いただきたい旨、説明。

2 審議事項 中間年度見直しについて

＜基本施策1－（1）芸術文化活動の情報発信体制の充実＞

事務局

資料2をもとに現状と課題、見直しの方針について説明。

（以下、すべての基本施策について同様の説明を行う。）

副会長

実行プラン①②に共通するが、サイトを構築するだけでなく、それをどのように周知していくのか。より多くの方に伝える方法の検討とあるが、具体的にどのような方法を検討しているのか。また、周知の部分で予算は組まれているのか。

事務局

サイトについては次年度公開予定としている。サイトの使い方等を記載したチラシを作成し、小中学校の全生徒、公民館、コミュニティセンターなどの市民が出かけるところやギャラリーを併設しているカフェなど幅広く配架したいと考えている。また、市の広報紙やSNS、HP等でも周知を行っていききたい。予算については、チラシ作成については、計上している。次年度は、それらの周知を進めながら他の方法についても検討したい。

副会長

ブランディングが大事。アンケート調査の結果、これまでの既存の媒体では不十分だという回答となっている。情報サイトの価値を多様な形で届ける工夫がないと数値は改善していかない。チラシの他にも、とりわけ若い世代に向けた情報発信のために、SNS の活用やサイトの広報の見え方など工夫が必要になるのではないか。

委員

サイトでは、待っていてもアクセスしてくれないというのが課題。施設等であれば、メルマガなど登録すると情報が自動的に来るようになっている。プッシュ型の広報は考えているのか。

事務局

プッシュ型の情報発信として、SNS を活用できないか、構築業者にも相談しているが、すぐに実施できるものは現在ない。サイトにアクセスしてもらうことがハードルであるため、サイトに行き着くための工夫は必要だと考えている。

委員

高齢者にも LINE は使用できる人が多い印象にある。40 代、50 代は忙しいため、自分から情報を検索するよりも自動的に情報を受け取る方が向いていると考える。

委員

当初の 8.8%から数値が上がったのは、コロナ禍も落ち着き、芸術文化に触れたいが、どうしたらいいかわからず、情報を求めている人が増えているとも捉えられる。40 代、50 代は忙しい世代である一方、子育てが一段落した世代でもある。その人たちが不十分であるとする理由が読み取れるものはなかったのか。

事務局

希望する情報取得手段は尋ねていたが、他のアンケート項目から読み取ることではできなかった。その辺まで聞いていればさらに具体的な対策を検討することができたと感じている。

会長

イベントの事後情報発信も大事になる。参加できなかった人が「次は参加したい」と思えるような情報を発信することも大切である。参加者の声などが載っていると参考になるのではないか。

事務局

サイトの中では、管理者が発信するページやレポーターが記事を作成するページを活用して発信していきたい。アンケートの中でも活動の様子が分かる方が参加しやすいとの声もあがっていたため、そのような情報も発信できるようにしたい。

会長

「楽しかった」ことが感じられるような発信の仕方を考えてほしい。

<基本施策1－(2) 芸術文化の魅力を伝える機会の創出>

副会長

長津研究室、まどかぴあ、コミュニティ文化課で共同研究としてレポーター研修とファシリテーター研修について、どのようなあり方がよいのか、調査研究を行っている。レポーターのプレ講座では、実際にインタビューを行い、記事を書くというところまで行った。面白かった一方で、サイトに載せるには添削等が必要だと感じた。今後の体制については、次年度に向けて考えているところである。

委員

40代、50代は必要性を感じていない人の割合が多いとのことだが、その年代をフォローするよりも、より興味がある世代を伸ばした方がよいのではないかと。興味がない人に周知するよりも、興味はあるが、芸術文化から離れていた人に対して周知した方がよいのではないかと。いずれ、40代、50代の方たちも興味が沸いてくるのではないかと。

委員

まどか文化祭では、年代が高い人が多く訪れていた。SNSを活用するのであれば、若い世代をターゲットにする方もよいのではないかと。

委員

40代、50代の子供は最も感性が育つ年代であり、親から受ける影響を考えると、その世代も掘り起こす必要があるのではないかと。忙しい世代だからといって、切り捨てることはできないのではないかと。

事務局

アンケートの中でも、「子どもと一緒に参加したい」や「子供が体験できる機会を探している」という声が多く見受けられた。忙しい方でも、自分のお子さんであったら情報を取得しようとしてくれるのかもしれない。そのような面では、40代、50代を含めた周知を行いたい。

委員

40代～50代というのは、就職氷河期世代であり、経済的にも抜けている世代であるとのこと。

<基本施策2－(1) 芸術文化に興味を持ち、誰もが体験・鑑賞できる環境づくり>

会長

まどかぴあでは、小学生に対し、まどかぴあへバスで連れてきて、芸術文化活動を行っている。しかし、バス代が高騰しているため、インリーチ活動を活発に行いたいのが難しい。この実行プランに記載している通り、身近な場所である公民館やコミュニティセンターを舞台に実施してもよいのではないかと。舞台を地域とすることで、子どもたちだけでなく、地域の人たちも参加しやすいのではないかと。インリーチについては、それらの施設も含めてプランに記載した方がよいのではないかと。

委員

大野城市では、公民館ではどの程度芸術文化活動が行われているのか。

委員

部屋の予約が取れないほど、活発に行われている。様々なお稽古が行われている。

委員

今後、市民参加型のイベントを行うが、イベントの周知がとても難しい。イベントに参加してもらうための周知方法が課題である。
先ほどの公民館での芸術文化活動については、まなブックが冊子、ホームページで閲覧でき、活用されていると感じる。

委員

まなブックを見ながら地域を越えて活動を探されている様子が見受けられる。

会長

今回のアンケートでは、活動をしている人の声が反映されていないような気がした。特に、公民館で活動している人の声が入っていないのではないか。アンケートの結果は真摯に受け止めつつ、公民館で活動している人たちにも目を向けることも大切である。

<基本施策3－（1）芸術文化の創造・継承活動への多面的な支援>

副会長

「実行プラン①若い世代が活動できる取り組みを」として、伝統芸能などの多様なジャンルを体験する機会の提供というのは、取り組みとして理解できるが、これまで実施してきた取り組みへの評価、今回の見直しでの課題からみた位置づけと現状についてどのように捉えているか。

事務局

実施した取り組みについても裾野を広げる大切な事業である。しかし、その事業の中でも取り上げられていないジャンルを今回新たに記載している取り組みの中でフォローしていきたい。

副会長

取り上げられていない分野というのは、文化連盟が行っている体験事業の中で活動されている人の分野が偏っているのか。

事務局

体験事業はここ数年で見直し推進していただいているが、まだ取り上げられていないジャンルがあること、また団体によっては、自分たちで体験の機会を設けることが難しい団体もあることから、その辺りをフォローすることで、体験の偏りが減らせるのではないかと考えている。

委員

文化連盟で体験活動を行っているが、古典芸能と比較的新しい芸術とを組み合わせたいと思って実施している。なかなか人が集まらず、周知の方法なども含め考えていきたいと思う。また、ジュニアときめき文化祭では、文化連盟加盟団体の参加が多く、一般の方が参加しづらくなっている。今後、一般の団体も参加できるように考えていきたい。

委員

将来の担い手となるような支援とは、どのような支援を想定しているのか。広報活動なのか、人的補助なのか、金銭的なものなのか知りたい。

事務局

支援というと多岐にわたるが、本プランの現段階では、金銭的な支援等は難しいと考えている。まずは、担い手となりうる人たちを増やす、裾野を広げるための取り組みを行っていききたい。一方で、版画ビエンナーレなど専門的な支援の方法も実施されている。事務局としては、残りの5年間で裾野を広げる取り組みを進めながら、その中でその他に必要な支援がどのようなものなのか把握していききたい。

<基本施策3－（2）芸術文化を活かす担い手と受け手をつなぐ機能の充実>

委員

相談件数が8件とあるが、どこに相談された8件なのか。

事務局

今回の数値目標については、プランに関する相談として、コミュニティ文化課に対して依頼のあったものを計上している。もしかすると、まどかぴあにも相談があっていたかもしれないが、事務局で把握できるものとしている。

委員

どのような相談なのか。

事務局

事業の中で体験活動を行うためにアーティストを紹介してほしいという内容が多かった。ハンドブックの周知先からの相談や、連携会議に参加している課からの相談が多かった。

副会長

事業というのは具体的にどのような事業か。

事務局

例えば、福祉フェスティバルにおいて障がいの有無を問わず体験できるワークショップを行いたいという依頼や学校の文化祭の中で子どもたちに体験させたいという依頼などがあった。また、実現に至らなかったが、コミュニティセンターで何かできるものはないかなど漠然とした内容の依頼もあった。

会長

コミュニティセンターからまどかぴあにも相談がある。アーティストの紹介や企画の立て方など。

副会長

そのような相談にどのように対応しているのか。現在の体制であるから、ニーズに合わせて相談に対応できているが、仕組みとして続けていく中で、専門的な知識でなくてもよいので、ある程度の経験を持った人が必要になってくる。これは、アーツカウンシルという芸術の相談や助成を行う

専門的な機関が担う仕組みではないか。普通は市役所職員では対応しないものが、今、たまたま対応できる体制になっているという良い面でもあり、長続きするか不安な面でもある。この仕組みを続けていくには、誰がこれを担っていくのかということが重要である。

委員

相談があった際に紹介するアーティストはどのように選んでいるのか。

事務局

現在は、自分が体験したワークショップの講師や、関わったことのあるアーティストの中から紹介をしている。

会長

まどかぴあも職員が知っている人を紹介している。

委員

アーティストバンクはあるのか。

事務局

現在は、アーティストバンク等がないため、サイトをアーティストバンクとして活用したいと考えている。市内には、アーティストが多く活動していると考えられるため、サイトで募集をかけつつ、発掘をしていきたい。そうすることで、より偏りのない、幅広い情報を提供できると考えている。

委員

アーティストバンクは、サイトの構築にも、よろず相談所にも関わってくるものである。

委員

県の家庭教育学級の講師バンクがあり、県内のアーティストが一覧になったものがある。そのような形のデータバンクが必要である。また、大野城市在住で、市外で活動している人も多くいる。そのような人材は、ギャラリー等に話を聞くとより多くのデータを取得することができる。

副会長

アーティストバンクがあればよいのかという懸念もある。ニーズにあったアーティストを派遣するためには、ある程度の目利きが必要。それを、人事異動がある行政の職員がアーティストバンクを見ながら、相談を受け付けることが適切であるとは思えない。専門性とまではいかないが、「ある程度の経験」を持つ人が担うことが必要である。

委員

個人と市（相談者など）との間に入る人が必要ということか。

副会長

横浜市など大きな自治体では市役所の中でそのようなポストを置いているところもあるが、比較的少数の自治体では、そのような専門的なものについては、まどかぴあのような存在が担っているところが多く、その中にアーツカウンシルを置く、あるいは文化連盟のような存在の中にアーツカウ

ンシルを置くというような形態である。そのような仕組みの研究と構築を残りの5年間で行えると継続的なものになるのではないかと。

委員

よろず相談所の具体化を今後行っていく必要がある。誰が担うのか、どのような機能を持たせるのかなどあり方を検討していくことが重要。

会長

体制も含めてのあり方の検討ということである。

委員

大野城市が地元の芸術家を大事にする、市民のもとに派遣する仕組みを作るのであれば、相談したくなるものになるのではないかと思います。このような仕組みを作るのであれば、専門的な質問や幅広い質問に対応できるようなものにしてほしい。

委員

どのような人が担うことができるのか。

委員

学ぶことができれば対応できると思う。相談に応じることについては、若い方でなくても、むしろ年齢が高い方などご自身の経験をもとに、対応できるのではないかと。

委員

あらゆる芸術分野が情報共有を行って一緒に活動できないかと考えている。それをマネジメントする存在、仕組みを生み出すことが重要である。

事務局

残りの5年間で、あり方の検討ということで、あらゆる方面から検討していきたい。先行事例など情報があれば紹介いただきたい。

副会長

何かしらの仕組みが今後必要になってくるのではないかと。このようなアーツカウンシルで勤めている人は、なにかしらの経験を持っている人たちであったり、アートマネジメントなど学生のころから勉強している人たちの就職先にもなりうると思う。人材に関しても、あらゆる可能性を持っていると考えられる。

委員

他の分野からの意見ももらいながら検討していくことが良いのではないかと。

＜基本施策4－（1）団体や芸術分野を超えた交流の促進＞

副会長

交流の場でやりたいこととして「合同イベントの実施・企画」とはどのようなものを示しているのか。まどかフェスティバルは合同イベントと捉えられていないのか。

会長

まどかフェスティバルは、合同イベントであるとは思いますが、市民はそう感じていないように思う。

事務局

日頃、芸術文化に興味のない方が、日時を同じくすることで、芸術文化に触れることができるという点では、まどかフェスティバルも分野を超えた合同イベントと捉えることはできるかもしれない。

委員

ここでいう合同イベントとは、いくつかの団体が一緒に行い、集客を行うようなものなのか。

事務局

アンケートの結果からはわかりかねるが、昨年度実施したヒヤリングの中では、他団体とのコラボレーションイベントや小さな団体が大きなホールでイベントを行うための協力関係のことを示していた。

＜基本施策４－（２）芸術文化を通じた「社会参加」「交流」の機会を広げる環境づくり＞
意見なし

＜基本施策５－（１）芸術文化に関わる多様な資源を活かす仕組みづくり＞

委員

空きスペースの調査については、コミュニティ文化課だけでは限界がある。他課などにも聞きながら、場所を探していくと良いのではないかな。

委員

新たな施設とはどのような施設を考えているのか。

事務局

まずは、公共施設以外の場所を考えている。また、ダンスはここでしかできないなど、これまで固定化した活動場所のイメージを変えることも、新たな場所となるのではないかと考えている。例えば、ホールのステージではなく、野外広場で発表を行うなど、これまでとは異なる視点で活動場所を探してもよいのではないかと考えている。そうすることで、団体の活動場所が広がったり、バッティングして施設予約ができないなどの課題の解決にもつながるのではないかと感じている。

委員

何かリストがあるのか。

事務局

現在、リストはないため、サイトの中でリスト化していきたいと考えている。その中で、施設の写真等も含め紹介を行っていく。また、作業部会でご意見をいただいたが、その施設に関する一言メモなどを設け、施設の特徴なども追記することで、団体が場所を選ぶ際の、選択肢の幅が広がるようなページとしたいと考えている。

委員

実行プラン①に関して、調査報告書の 17 ページ「プランに期待すること」に記載されている意見が幅広く、様々な声があり、興味深い。このような意見を芸術文化団体に知らせることで、活動の内容を検討する材料にもなるのではないかな。

委員

小中学校の中で、授業以外で芸術文化活動をされている例はあるのかな。

委員

体育館は社会体育が主だが、中にはダンスやバトンが行われている学校もある。また、ランドセルクラブの体験活動をとおして触れることができています。本校は、校内の掲示板を利用して地域の陶芸作品の写真とともに、連絡先を記載したものを掲示するなど、場所を開放している。

委員

中学校は部活がある。運動部の方が、母数が多いというのはあるかと思うが、美術部や吹奏楽は他の運動部よりも部員が多く倍以上いる。特に、美術部は 60 名とかなり多い。土日に活動がないことも理由のひとつではないかな。部活動の地域移行の中で、どのように移行できるかもまた、芸術文化のまちづくりのひとつの課題でもあるのではないかな。アンケート調査について、無作為抽出とあるが、芸術文化活動を行っている人たちにも調査を行った方がよいのではないかな。そうすることで、活動している人の求める傾向がわかるのではないかな。

副会長

実行プラン②について、他の実行プランに記載されている内容と重複しているように感じる。このプランの趣旨としては、大野城市の生活文化や歴史文化に関する振興である。地域団体のメンバーの高齢化や新メンバーの確保はここではないのではないかな。むしろ、暮らしの文化や芸術文化に触れる機会を増やす、地域の特性を知るということで、やはり、心のふるさと館の役割が非常に大きいのではないかなと思う。生活文化のことについては、先ほどのアンケートの自由記述欄に「生活文化に関する講座が圧倒的に少ない」とあった。心のふるさと館での取り組みをより充実させるということでもよいのではないかな。

<今後の流れについて>

事務局

見直し素案の構成（案）の資料をもとに説明。

審議会の内容をもとに素案を作成し、作業部会で協議し、審議会委員の皆様に確認をいただきたい。

各委員

意見なし

3 閉会